

- ▶第3回教員リフレッシュ合宿 (2面)
- ▶第56回全国聖書科研究集会 (〃)
- ▶加盟校動静/公募 (〃)
- ▶各地区夏期研修会報告 (3面)
- ▶わたしたちの奉仕活動 (4面)
- ▶教育同盟編集「聖書科教科書」(〃)
- ▶研修案内/行事予定 (〃)
- ▶聖書のことば (〃)

キリスト教学校教育 10

2022・2023年度教研テーマ
希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 康太
編集人 田村 浩一
頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)
(毎月1回15日発行)

第65回学校代表者協議会

11月3日(金)4日(土)



(学)自由学園で開催

第65回学校代表者協議会が11月3日(金)17時～19時45分、4日(土)9時30分～16時30分、学校法人自由学園(東京都東久留米市)の記念講堂で開催されます。主題は「希望と喜びに生きる—新たな転換期に立つキリスト教学校」とし、講演や発題、グループ討議が行われます。

代表者協議会は、各加盟学校法人の教学・経営に責任を持つ方々が情報共有し、学校運営を具体的に協議、新しい方向性を見出すための会議です。

自由学園は1921年(西池袋)はフランク・ロイド・ライトの設計で、現在重要文化財として登録されています。キリスト教を土台とし、

「思想しつゝ生活しつゝ祈りつゝ」という理念のもと人間教育を実践している。自由学園の校舎・園から大学部までの一貫教育で、現在約810名で豊かな自然環境の中に立つ素晴らしい施設で豊

夏期研修会報告 〈全国開催〉

4年ぶりの対面型での開催 第10回 中堅教員リトリート 共に生きる

キリスト教学校に繋がる希望と喜び

8月1日(火)～3日(木)に、同志社びわこリトリートセンターにて第10回中堅教員リトリート(節目研修)が、4年ぶりの対面型で講師2名、実行委員7名を含め25名の参加者(小中高)で開催されました。大変暑い中ではありましたが、多忙な学校現場から離れた琵琶湖畔の静かな自然環境の中に立つ素晴らしい施設で豊

かな研修を行なうことができました。研修の対象は中堅教員となっており、今年度の参加者は勤務年数が3年から36年と大変幅広く、世代を超えた共通課題についてはもとより、それぞれの世代の抱える課題の共有や意見交換など、世代間交流にもなった研修となりました。

今年度の主題は「共に生きる」キリスト教学校に繋がる希望と喜び」でした。研修は、実行委員の浅里慎也先生(北星学園女子中学高等学校校長)の開会礼拝で始まり、その後の発題は昨年(前西南学院中学校・高等学校)校長、福岡音楽学

院附属幼稚園園長が担当して下さいました。中根先生が止揚学園の創始者である福井達雨先生と交わりの中で学んだことを中心として、止揚学園の玄関に掲げられている力強いメッセージを聞き、見えないものに目を注ぐ(コリント人への第二の手紙4章18節)ことが大切で、そしてキリスト教学校は、生徒と共に、同僚と共に生きる学校ではないかと語って下さいました。

発題後にもたれた「黙想の時」は、誰もが沈黙して自由に思いを巡らすために確保されました。時間ですが、参加者の多くが何かに束縛されることもなく自由な時間を静かに過ごすことの喜

開会礼拝 浅里慎也氏

発題 中根広秋氏

朝・夕礼拝 新堀真之氏

わたしに倣う者となりなさい



嶋田 順好

事実、毎日、学校に通ってくる児童、生徒、学生に向かっているなか、否、そうであれば、あらためて言うまでもなく、使徒パウロが「わたしでないこと、分かり切ったことに倣う者となりなさい」(コリント人への手紙1章4章)と考えているとすれば、教育の16節、11章1節)と告げている本質を理解していない過ちと、抗して教師として歩む喜び、人は、なにかの気づきと恵み、幸い、大いに児童、生徒、学生に向かっているなか、後継者養成のために仕える者でありたいし、そのようなキヤリアデザイン教育に取り組むという真剣な証言を聴かされたという願っています。

「ブラック問題」にさらされるキリスト教学校の最重要課題は、入学者の確保と共に、より良いキリスト教教育を実現するために、児童、生徒、学生を愛し、教育への情熱と献身の志を堅持した若手のキリスト者、あるいはキリスト教教育に理解ある者を得ることであることは言うを俟ちません。

教育同盟に連なるすべての小学校、中学校、高等学校で、キヤリアデザイン教育の重要性が叫ばれ、社会の「そう」という主題が、正面から取り上げられていないこと、

「たとえば、看護師、消防士、たとえば、教師になる道」(横濱英和学院理事長)



うとする現場へ赴き、体験からの学びを目的とした研修会を企画。また熊本地震だけでなく、オプショナルツアーとして2020年の人吉市・球磨村での豪雨災害被災地の見学を研修プログラムに組み込み、気候変動による風水害についても考慮していることと計画しておりました。



九州ルーテル学院大学の一室からオンライン開催で実施

第8回全国災害支援 連絡会議 熊本研修報告

熊本地震から7年。昨年の宮城県での研修会に続き、今年度も甚大な被害を受け、復興を果たす

ところ、8月4日の混乱が伝えられる状況下で、「災害支援」と

銘打った研修会を強行し(2面につづく)

(1面よりつづく)

て全国の参加者が熊本に集まることはできないと、急遽対面での研修会を中止して、開会礼拝と講演会をオンラインで行うという判断をされました。

8月7日(月)、九州ルーテル学院大学のボラティアセンターの一室から、オンライン配信による第8回全国災害支援連絡会議を開催しました。開会礼拝では九州ルーテル学院大学のチャレン崔大凡(チェ・テボレン)牧師による聖書朗読。奨励「絶望を超え、見よう」では、不幸な事故や災害から目を背けるのではなく、私たち一人ひとりが教訓を生かし、神様から与えられた子どもたちの命を守ることをできるような心をつくしましょう、というメッセージがありました。また、会場の九州ルーテル学院大学の福田邦子理事長のご挨拶では、熊本地震でのキリスト教学校教養同盟加盟校からの九州ルーテル学院への支援への御礼をいただきました。

翌日、台風接近の直前ではありましたが、実行委員は南阿蘇に赴き、7月にオープンしたばかりの震災ミュージアムKIUや阿蘇大橋の崩落現場などを巡り、来年度の熊本研修再挑戦へ向けた準備をいたしました。巨大な断層、大地の裂け目、阿蘇山の表層崩壊、深い渓谷に落ちた橋脚。雄大な阿蘇の自然を前にして人間の無力さを噛み締めつつ、キリスト教学校が愛によって繋がっているよう、来年度の熊本での研修会へのご参加をお待ちしております。



震災ミュージアムKIU(南阿蘇村)

〈東洋英和女学院小学部部長、全国災害支援連絡会議実行委員長〉
吉田太郎

た。

第3回 教員リフレッシュ合宿

立ち止まって 自分を再発見しよう

第3回目となった「教員リフレッシュ合宿」(教育者支援ネットワーク推進委員会主催)が、8月10日(木)～12日(土)の2泊3日、洞川温泉あたらしや旅館(奈良県天川村)に於いて、参加者10名・スタッフ6名の計16名で開催されました。



早天礼拝

今年度は施設の都合で16時30分開会となり、遠方からの参加者も比較的にゆとり集合することができました。台風6号による交通機関への影響も心配されましたが無事に着し、2泊3日がスタート。開会礼拝(川俣茂委による発題「疲れを覚えるとき」)。水口先生・清教学園中学校高等学校(の)後、「出会いのとき」として他己紹介の時から「孤独」などの多くを持ち、スタッフの不安をよそに、参加者はすぐにサインが示す意味を考え、二日目は天候に恵まれた。発題を受けた「振り返りと静まりのとき」は、無言を貫きつつ自己と向き合う、この合宿の中心ともいえる思いの時間を過ごしました。

午後には引き続いて参加、昨年度の参加者から別な先生が参加、校内で誘い合って参加者の広がりを見せた年



お膳を並べての食事



お膳を並べての食事

分を知る「こと」、「五感で感じる」「共通体験」などのキーワードから、時には音楽に耳を傾けながら、「教育共同体」に属する私たちにとって重要なポイントが示され、「振り返りと静まりのとき」でさらに自分と向き合う時間を深めることとなりました。その後は恒例の自由時間、親しくなっているように思います。

でもありました。それは「キリスト教学校の横のつながり」の広がりを意味すると同時に、この時代だからこそ「キリスト教学校では何をベースにする答えを「共に考える」の一つとして存在していることにつながっているように思います。

川俣茂(清教学園中学校・高等学校 中学宗教主事)

第56回 全国聖書科研究集会

今、キリスト教学校において「キリスト教育」が問われていること

8月17日(木)～19日(土)、第56回全国聖書科研究集会が66名の参加者を得て捜真女学校中学校・高等学校を会場として開催されました。森島豊先生(青山学院大学教授)の開会礼拝に続いて会場校長の中山謙一先生の挨拶の後、「今、キ

リスト教学校において聖書科教育が問われていること」と題して塩谷直也先生(青山学院大学教授)の講演を聴きました。「教育は特殊であり、子どもたちは多様。私たちは不十分であり、環境を変えることで子どもたちが咲くことができるようにすることができ、またサウルとダビデの出来事を引用し、エスの救いと福音を語る」などのお話が印象的でした。さらにヨハネ福音書の「洗足物語」での「わたしのしていることは、今あなたには分るまいが、後で、分かるようになる」(ヨハネによる福音書13章7節)というイエスの言葉を引用し、神のなさる現実の後で分かるという信仰に立つことの大切さをお話しくださいました。また「正しい者は一人もいない」(ローマの信徒への手紙3章10節)を引用し、「ネガティブなフラット」が慰めを与える、「罪責感と与える、「罪責感と



2日目フィールドワーク(神奈川宿の高礼)



講演 中島昭子氏



生徒による学校紹介



講演 塩谷直也氏



最終日は、主に講演や授業紹介、そして今回の研究集会全体の感想や今後に期待すること等が共有されました。最後に、平松讓二全国委員長(同志社女子中学校・高等学校)から挨拶、会場校の中島学院長と同校聖書科の藤本忍委員長から挨拶をいただき、平松委員長の開会祈祷で会を閉じました。

加盟校動静

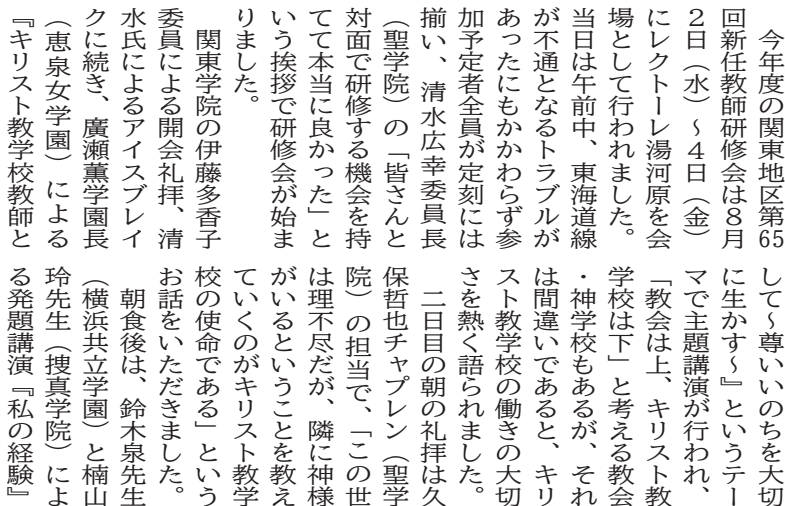
聖ステパノ学園 創立70周年を迎え、9月22日(金)13時30分から記念礼拝・記念式典とコンサートが海の見えるホールで開催された。

公 募

※特記のない採用予定日は24年4月1日です。
▽弘前学院大学 職種Ⅱ心理学 准教授又は講師1名 応募締切10月20日 問合せ0172-74-6211
▽広島女学院大学 職種Ⅱ文学部日本文化学科 問合せ0263-363-0696
▽人文学部日本文化学科 職種Ⅱ日本語・日本語教育専任講師、准教授又は教授1名 応募締切10月27日
▽人間生活学部管理栄養士 職種Ⅱ英語科 専任教諭1名 応募締切10月13日 問合せ0245-641-3785
▽同志社国際中学校・高等学校 職種Ⅱ数学科 専任教員1名 応募締切10月13日 問合せ0774-65-9911
▽明治学院 職種Ⅱ専任職員(事務総合職)若干名 応募締切10月23日 問合せ03-5421-5117
山高等学校

最終日は、主に講演や授業紹介、そして今回の研究集会全体の感想や今後に期待すること等が共有されました。最後に、平松讓二全国委員長(同志社女子中学校・高等学校)から挨拶、会場校の中島学院長と同校聖書科の藤本忍委員長から挨拶をいただき、平松委員長の開会祈祷で会を閉じました。

『キリスト教学校教師として』
～尊いいのちを大切に生かす～



A black and white photograph of a large lecture hall. Numerous students are seated at long tables, facing a stage. A lecturer is visible on the stage, and a large screen displays content. The room has a modern design with a patterned ceiling.

朝食後の全体会で、それぞれの分団での話し合いを共有し、振り返りと分かち合いの時を持ちました。岡崎一実委員（関東学院）による閉会礼拝で今年の新任教師研修会は終了となりましたが、オンラインでは得られなかった多くのものを持つて新任の先生方がそれぞれの学校に戻られたことと思うとともに、次年度も多くの参加者を迎えることができるよう祈っております。 小島和夫
〈頌栄女子学院中学校・高等学校教頭〉

関西地区

第65回夏期研修会

セクシャリティーをめぐる私たちのなはし
～“生徒のわたし”と“教師のわたし”

関西地区協議会主催の夏期研修会が、8月3日（木）～4日（金）の2日間にわたって行われました。例年、会場は京都ガーデンパレスでしたが、今年度は学校法人同志社の御協力を得て、同志社大学今出川キャンパスでの実施となりました。

教研主題「希望と喜びに生きる―新たな転換期

セクシャリティーをめぐる私たちののはなし
～“生徒のわたし”と“教師のわたし”

に立つキリスト教学校」のもと、「セクシャリティーをめぐる私たちのけなしく生徒のわたし」と教師のわたし」というテーマを設定しました。藤井航氏（関西学院高等部非常勤講師）と土井直彦氏（関西学院千甲国際キャンパス宗教主事）のお二人の講師をお招きし、学びの時を持つことができました。かつて藤井氏は横須賀学院の生徒、土井氏は同校の教師でした。当時生徒であった藤井氏が抱えていた悩みや葛藤を率直に言葉にして表現してくださいました。そのような生徒の現実に対して教師が連携しながらどのように寄り添い、関わり、支援したのかを具体的に知ることができました。土井氏はチャプレンとして、また臨床発達心理士の資格



西南地区の夏期研修から講演をされました。

地区の夏期研修から大学まなぐレド、教育管理職など様々に学ぶこと二回な研修に初日と二日目には互いに聞きあえることがあります。お二

「希望と喜びに生きる
—新たな転換期に立つキリスト教学校—」との主題のもと、7月27日(木)、28日(金)に第63回西南地区新任教師オリエンテーション及び第73回夏期学校が北九州市の「ホテルクラウンパレス小倉」で開催されました。北九州地区の梅光学院、西南女学院、折尾愛真学園が当番校として集会の運営を担当し、100名の参加者でした。

新任教師オリエンテーションは、開会礼拝で李泳善梅光学院大学宗教主任により聖書ヨハネ福音書15章5節から「そのひとは豊かに実を結びます」との奨励が始まり、その後、講師の樋口紀子

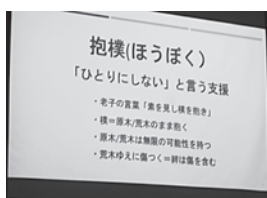
梅光学院理事長・院長・学長・校長が、「キリスト教学校で働く意義」と題して講演が行われました。講演要旨は1. キリスト教学校設立の歴史、2. キリスト教学校教育同盟についての歩みと現状、3. キリスト教学校の使命とは、またその使命は何で働くとは、等について話されました。また、キリスト教学校で働くことに關して、①神の存在を意識して生きる、②神様から呼ばれて就いた仕事、召命(calling)と言語認識を持つ、③生涯学び続ける、の3点を示されました。

夏期学校は13時30分より、樋口紀子夏期学校校

希望と喜びに生きる

ちキリスト教学校に働く者が「チームになる」ことに他なりません。今回の研修で、かつて

相澤弘典
〈頌栄保育学院理事長・
院長、夏期研修会実行委
員長〉



「抱樸」について解説

られました。「抱二日目の「朝の礼拝」は、原木・荒木を東彩子西南女学院キリスト教センター長・大学短期大学宗教主事の司式により、ルカ福音書17章20、21節から『神の国』は、わたしたちの間に」と題して奨励が行なわれました。

講演Ⅱは奥田知志牧師により『生きることに意味がある―相模原事件から考える―』と題して講演が行われました。現代日本の孤立社会の現状をデータで明示し、「ホームレス(社会的孤立)」と「ハウスレス(経済的困窮)」の違いを説明し、「この人には何が必要か?」「この人には誰が必要か?」の両面からアプローチし援助していく必要を説かれました。何よりも「出会い」を大切に、出会った責任を認識して、孤立・困窮者への伴走型支援を考えた教会の働きを紹介されました。生きる意味を求めて困窮の中にある若者が、生産性や効率という「縦の成長」には困難が伴うが、人間同士のつながりの中で「横への成長」をしていく現実に出遭い、ヤングケアラー、老老介護、単身世帯の増加と孤立化が進む中、ま

(4面につづく)

本校に転任してきたとき驚いたのは、とにかくボランティア活動への参加が非常に活発であることです。今でもボランティアの募集を呼びかけるやいなや、生徒たちが群がり、人数制限のある活動はさながら争奪戦のようです。

遺愛でのボランティアの取組みは全校あげてのもの(毎年6月に有志約五百名が町内清掃、クリスマス時期に市内十数か所でキャロリング等)のほか、外国客船来港時通

人気殺到のボランティア
遺愛女子中学校・高等学校

わたしたちの奉仕活動

函館市内の総合病院に送った刺繍のオーナメント

病院の壁一面に掲示されたクリスマスカード

ランナーに果物を配る生徒

＜行事予定＞	
10/26~27	第65回中高研究集会 (北星学園女子中学高等学校)
11/3~4	第65回学校代表者協議会 (自由学園)
11	第9回キリスト教看護教育 推進会議 (折尾愛真学園)
18	キリスト教学校教育懇談会 第21回講演会 (オンライン)
2024年	
1/12~13	第66回小学校代表者研修会 (青山学院横浜英和小学校)
6/7~8	第112回定時総会 (関東学院関内キャンパス)

研修案内 申込み締切日が近づいています

第65回中高研究集会
日程 10月26日(木)~27日(金)
締切 10月16日(月)
会場 北星学園女子中学高等学校
第9回キリスト教看護教育推進会議
日程 11月11日(土) 締切 10月21日(火)
会場 ホテルクラウンパレス小倉
*教育同盟HP「教職員の方へ」↓「同盟事務局」↓「各集案内・連絡事項」で要項をダウンロード、申込み用フォーマットにも入れます。

各地でインフルエンザの流行注意が呼びかけられています。同時にコロナはエリス株を主とする第9波とのこと、小職も8月に罹患しました。やはり用心が必要ですが、今夏はほぼ全ての研修会が2019年以降の通常開催となりました。対面での豊かさを実感しつつ、オンライン対応、デジタル記録の保存対応を進めます。

今号は研修会の実りが満載、参加者の学びの概要を分かち合います。次の開催には更に多くの出会いと学びが与えられます様に、「公立学校を凌駕するキリスト教学校教育」の為に歩んでまいりましょう。

事務局長

事務局だより

創元社 Tel:6231-9010
<https://www.sogen.co.jp/>

「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」 (マタイによる福音書5章13~16節より)

島根県の日本海に面する山の中、日本一小さな全寮制の高校があります。私はそこで、聖書科と「地塩寮」という男子寮の寮監を担当し、生徒たちと寝食を共にしています。キリスト教学校という教育と祈りの場であると同時に、建前の通じない生活共同体でもあります。

イエスが語られた「地の塩、世の光」の言葉を、どのように読まれるでしょうか。イエスは、「この世における塩や光のような存在にな리なさい。人の身体や生活に必要な不可欠なものに。周りを照らし、行く道を示すものに。」と語ったのでしょうか。「地の塩、世の光のような人とは？」と尋ねれば、返答は有名人や歴史に残る偉人の名。果たしてイエスは「そのようになりなさい」と語り得たのでしょうか？

イエスと共にいた弟子や民衆たちは当時、社会的な困難さや理不尽な差別から大変な生きづらさを抱えていました。明日を生きる希望もなく助けを求める人々

聖書のことば

準備はすでにできている

野間 陸

を前に、イエスが「努力して立派になれ！」と頭ごなしに語るとは考えにくくあります。そしてよく読めば、「なりなさい」ではなく「(すでにそう)である」と言い切っています。

「あなたは地の塩、世の光である。」この言葉は、こうすれば塩になれる、これがあれば光になれる、という努力目標の類を越えた、あなただけが持つ命そのものへの祝福ではないでしょうか。「ただあなたが生きてくれているだけで私の毎日は味気あり、心はホッと温かい。」という、イエスからの根源的な生命賛歌に読み取れます。

時代と人の心が捻じ曲がり、命の軽重が問われるような社会になるほど、それでもあなたに生きてほしいんだと当たり前のことを語る重要性は高まっています。「生きろとか、よくもそんな綺麗事を！」と迫られても、いつもどこかで安心しているのは、その命、あなたこそ大切なんだと真面目な顔して語る準備が二千年前からすでにできている。今日もこの命を大切に、目の前の命に心込め、共に歩みたいと思います。

〈キリスト教愛真高等学校聖書科教諭／寮監〉